

TPiCS レポート

「TPiCS は 青い鳥みたいですね。
あんなに苦勞してきたのが、パソコンで こんなに
簡単に出来てしまう」
「TPiCS を実際にこの目で見ると、考え方が変わ
りますね」
「TPiCS のデモ版を見て、よく出来ているソフト
だと思い 研修会に参加したのです。内心 これから
社内で再構築しようとしているシステムの参考にな
れば と思っていたのですが、とてもそんなもんじゃ
ないのが よく解りました」
こんな声を 沢山の方から頂きます。
これまで苦勞をした方ほど、よく解って頂けるよう
です。
勿論TPiCS も生まれた時から こうだった訳では
ありません。
これまで沢山の方達に使って頂き、ユーザーの声を大
事にし、TPiCS に反映して来たからです。また 時
代の動きに合せ、システムをどんどん“変えて” 来た
から これまでに成れたのです。

これが前置で、
DOS/V 対応 が出来ました!

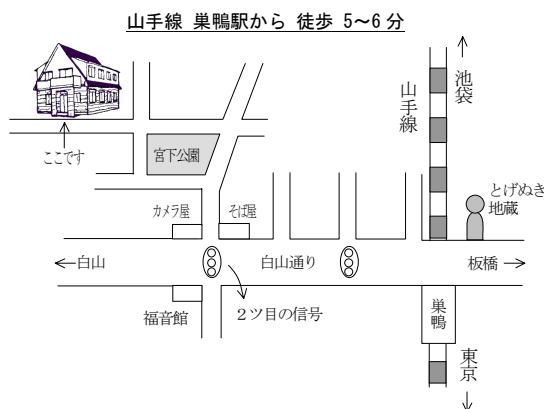
完成するまでは 描画速度が心配でしたが、マシン性能
の向上は素晴らしく、全く杞憂に終わりました。
何時も「世の中は進んでいます」と言っているくせに
と、自分に恥じいったほどです。
DOS/Vには、HiTEXT と呼ばれる 横100文字×立て31
行とか 128×48 など 一度に沢山表示出来る画面モー
ドがあります。
今後 更に、TPiCS が、HiTEXT に対応出来るとな
ると（まだ手を付けていないので、可能性は不明です
が）とても魅力あるものになると思います。
しかし、ここでまたまた何時もと同じ話になりますが、
DOS/V (AT 互換機) の世界というのは、TPiCS
以上?に“自分のことは自分でやる” 世界のような
です。
是非 よく勉強なさってください。

今回のテーマ

- Btrieve 版TPiCSとは何か
- TPiCS-IV、VII、J、Pro バージョンアップ



3月25日に いよいよ新社屋に移転します。
皆様のお引き立てを頂き、ようやく 夢の一つが叶うことになりました。
何時も満員でご迷惑をお掛けしていた研修会も、1回にご参加頂ける人数を3人程増やせますので 多少緩和される
かもしれません。



〒112-0011 東京都文京区千石4-8-6
TEL 03-5395-0055 FAX 03-5395-0056

東京駅から 30分
新宿駅から 20分
羽田空港から 50分

これからも、パソコンを中心にした生産管理の分野で ただ ひたすら 走り続けます。
どうぞ ご支援賜りますようお願いいたします。

第2回 ユーザー会を開催したいと思います。

日時：4月26日（月） 10:00～16:00

場所：TPiCS 新社屋

定員：20～30名（先着順）

内容：① 自己紹介

② ユーザー事例発表

③ TPiCS-IV、VII、J バージョンアップの説明

④ その他

最近 TPiCS に積極的に取り組み ビジネスに繋がりたいと仰って頂ける方が増えて来ました。そんな方から「SI向けの販売、サポート契約のようなものはありますか？」という質問をよく頂きます。

私は、こんなもので儲けようという気は全くありませんが、販促資料や デモ版の送付、時にはユーザー様のご紹介などのことを考えると、一つの絆を作っておいた方がよいのではないかと考えました。

契約料：5,000円/月

サポート内容：販促資料、最新デモ版の送付 等

技術支援：TPiCS に関連するシステムを開発なさる場合の支援を行ないます。

プロダクトの紹介：広く TPiCS ユーザーに使って頂けそうなアプリケーションは紹介させていただきます。

（エンドユーザー様とSI様とで直接取り引きして頂きます）

ご契約条件：TPiCS 研修会に1度はご参加頂きTPiCS をある程度ご理解下さるようお願いいたします。今後は、SI様向けの研修会や、コンピュータ利用技術を中心にしたコースも開催していきたいと思っております。

第1回 システムインテグレータ連絡会も開きます。

日時：4月27日（火） 10:00～16:00

場所：TPiCS 新社屋

定員：20～30名（先着順）

内容：① 自己紹介

② TPiCS-IV、VII、J、Pro バージョンアップの説明

③ その他

Btrieve版TPiCS とは何か？

'91年8月 No23 の、“かなり大きな転換期が目の前に迫って来たように思います。”で始まるTPiCS レポートで Btrieve について報じ、次に TPiCS の Btrieve対応 及び、Proの発売の時、'92年8月 No27 のレポートで また簡単に触れました。

このレポートを長くお読み頂いている方ならお気付きになると思いますが、私がこのレポートで触れていることが、次から次へと実現していきます。

5年前の LAN NetWare に始まり、ダウンサイジング、シリコンディスク、DOS/V。そして この Btrieve も、本物化してきたようです。

Btrieveを根幹にしたデータベース、あるいは 開発環境、簡易言語が 次々発売されます。

TPiCS にとって その環境が広がって行くのはとても有難いことです。

さて今回は Btrieve 版の“応用”とか“可能性”を中

心に ご説明したいと思います。

Btrieve を“NetWare 上で、サーバクライアントで動かす為のもの”のように説明されている方がいます。

（今だに私は このサーバクライアントなる言葉が理解できないのですが）

確かに、LAN上でのデータメンテナンスを細かく考えて行くと、Btrieve 流の動作の方が良いことが判り、今回の Btrieve 対応作業の中で、オリジナル版のデータベースにもその考え方を織り込みました。

しかし あくまで、LANは Btrieve でなくてもかまわないし、逆に Btrieve は スタンドアロンでも動きます。

TPiCS にとって本当に大事なのは、

① データのオープン性

② 処理スピードの向上

③ データの安全性向上

これが、本当の狙いです。

② に付いては、私が作ったオリジナルのデータベース

と比べ 期待したような効果はまだ見る事ができません。

- ③ まだハッキリした結論は得ていませんが、良さそうな感触です。

安全性がオリジナル版と比べ向上すると確信を得たら、今度の T P i C S -IV、VII、J のバージョンアップからは Btrieve 版 だけにすることも考えています。

いよいよ本命の データのオープン性の話に移ります。これは、期待以上の結果を得られました。

前回の説明では、「T P i C S が Btrieve 化される事により T P i C S のデータを他のシステムでも簡単に読み書きできるようになります」と書きました。

これは どこにでもある “??は ??に始まり??に終わる” 的な話で、T P i C S のデータの流れと 生産管理の業務が 解ってしまえば

“簡単に読み書き出来る” で 全てが明らかになってしまふものです。

しかし一般的には、“簡単に読み書き出来る” では、何が出来るのか? どうしたら良いのか? イメージが湧かないようです。

そこで 今回は、ある T P i C S ユーザーから相談を受けた事例でご説明します。

複数倉庫に部品や製品を保管する場合

No22 の “サポート記録より” の Q ロケーション管理が出来ますか? に対する A 欄でご説明しましたように、製造工程の中で管理が複数箇所におたるような場合は T P i C S の標準機能で “綺麗に” 管理出来るのですが、製造工程にあまり関係なく 例えばただ保管スペースだけの問題で 複数箇所に分散して置くような場合は、正直な話 T P i C S は 苦手です。

こんな場合、外づけのアプリケーションで補完して下さい。

先ず T P i C S のアイテムマスターのレコード長を拡張し、倉庫番号毎の在庫数を記録するフィールドを設けます。

T P i C S 本人は、在庫数を アイテムマスターのデータの中に持っています。

アプリケーションを開発する場合も 倉庫別の在庫数量は T P i C S 本人の使う在庫数量と同じデータの中にある方が楽です。

Btrieve 版は データのレコード長をユーザーが MAX 256BYTE 拡張できますので、その拡張した “尾っぽ” の部分に倉庫別在庫数量を記録するようにして下さい。

次に アプリケーションで、保管場所も一緒にインプットできる “実績インプット画面” を作ります。

そのインプット画面の背後で、倉庫別の在庫数を加算します。

その他、購入単価や 実績時間などもその画面でインプットし、そのデータを集めトランザクションデータファイルを作ります。

トランザクションファイルを Btrieve データで作るなら T P i C S -P r o の中の実績データ読み込みモ

ジュール ACT. EXE に渡します。テキストのトランザクションファイルを読ませるなら、A 2 4 J B. EXE を使います。

ACT. EXE 或いは A24JB. EXE は、トランザクションファイルを読み込むと その部品の在庫を加算し、遅れ進みの処理をし、T P i C S の “注残・実績データ” を更新します。T P i C S の 21 の画面で 直接実績データをインプットしたのと全く同じ動きをします。

ですから、アプリケーションでは T P i C S が加算するはずの在庫フィールドには 手を付けずに置くのがポイントです。

部品を購入する場面に関してはこれで充分です。

次は、製品 あるいは 中間製品 もしくは 仕掛りを完成した場合の子部品の引き落とし処理について考えます。

T P i C S の構成表のデータは、親と子の 1 対 1 のデータです。

親コードで検索し、NEXT NEXT で探せば、その子部品を見つけることは簡単です。

そこで 先程の “実績インプット画面” で、子部品を探し 全子部品の出庫倉庫番号を質問する機能を付けてあげ、同時にその倉庫番号の在庫を減産します。

この時も T P i C S 本人が使う子部品の在庫数には手を付けてはいけません。

子部品の引き落としも ACT. EXE が行ないますから、アプリケーションがやると 2 重引き落としになってしまいます。

最後は 倉庫番号ごとの在庫数を表示する画面や、帳票を作ればおしまいです。

また 倉庫番号別の在庫と 合計の在庫をチェックする機能も付けておけば 更に安心です。

このユーザーの場合は、買掛管理の機能の一部として、支払のデータも一緒に管理したいとのことです。

T P i C S の担当セクションマスターを拡張して、“前月残” “当月購入” “当月支払” “当月残” の各フィールドを設けます。

勿論 “手形支払分” とか “振込分” など、必要に応じ項目を設けます。

何しろ 256BYTE まで拡張できるのですから、数値項目なら たいていのことは出来るはずで

画面としては、“支払データインプット” を作ります。ファイルとしては、支払データファイルは別に作った方が良いでしょう。

運用としては、月に一度 (必要に応じ) T P i C S の “注残・実績データ” と “支払データファイル” から取引先ごとに集計します。

その時 “注残・実績データ” の中に “支払済み” のフィールドを設けておくのも良いアイデアだと思います。

TPICS-IV、VII、J、Pro バージョンアップについて

残りのスペースが少なくなりましたが、今回始ったバージョンアップに付いて 簡単に ご説明いたします。

今回のバージョンアップは、変則的に2回に分けてリリースします。

第1次リリースでは、ファイルフォーマットを変更するだけで済むような内容にとどめ、表面的な機能としては何も追加しないでリリースします。

第2次リリースで、また色々な機能強化やスピードアップを計っていきます。

第1次リリース

- ① アイテムコードの桁数を20桁から25桁に拡張します。
- ② パケットの最小単位を“日”から“直”にします。
1~9、A~Z、a~z まで 61まで設定可能にします。
- ③ カレダ数を 3から 99に増やします。
- ④ 注番の桁数を 10から 16桁に増やします。
- ⑤ 分類コードの桁数を 4から6桁に増やします。
- ⑥ 担当セクションコードを 10から12桁にします。
第1次リリースは、急を要するユーザー様だけにお送りします。(2月末予定です)

当社にも 待望の“男の子”が ようやく誕生しました。

今は パソコンのPaの字も分りませんが、きっと大きく育ってくれることと思います。

こうして毎日沸き立つような空気の中で仕事をしていると、この業界 小さな世界ではありますが、歴史の中の 次の1ページを 今 開いている、そんな実感を持つ事ができます。

第2次リリース

- ① 原価関係の充実を計ります。
1 アイテム1原価費目とし、アイテムごとに原価区分で費目を定義します。
原価区分の数値はユーザーが自由に再定義出来るようにします。
- ② オリジナルデータベース版のバージョンアップを放棄した場合、実績インプットで注番をインプットしないで済むようにします。(結論は最後に出します)
- ③ 生産計画表を製品の構成順で表示印刷できるようにします。
- ④ アイテムマスターや、担当セクションマスターをどこでも見られるようにします。
- ⑤ 分割発注マスターを新設し、複数発注先に対応出来るようにします。
- ⑥ ネットワーク上でのセキュリティ管理を強化します。
- ⑦ またまた多数、止めどなくバージョンアップは行って参ります。

今回のバージョンアップも無料の予定です。

(4~5月を目標にしています)

二ノ宮